

H-G-21 妊娠初期および中期における妊娠糖尿病の種々のスクリーニング法の比較検討

三重大学医学部産科婦人科学教室  
前川有香、杉山 隆、日下秀人、豊田長康

【目的】妊娠糖尿病（GDM）のスクリーニング法として提唱されている種々の方法の有用性について比較検討するために臨床研究を行なった。【対象】糖尿病と診断されていない妊婦【方法】インフォームド・コンセントを得たうえで妊娠初期および中期に随時血糖・空腹時血糖・HbA<sub>1c</sub>の測定、一般検尿による尿糖検査・gas chromatography-mass spectrometry法（GC/MS法）による尿中糖代謝解析・50gGCT・75gOGTTを施行した。【結果】妊娠初期・中期ともに、随時血糖100mg/dlを超える場合を陽性とする感度は50%以下、尿検査の感度は25～33%であった。【考察】妊娠初期にGDMと診断された患者は全体の2.1%、中期に新たにGDMと診断された患者は1.9%であり、妊娠初期に発見可能なGDM患者が多く存在した。【結論】空腹時血糖測定・GCT等がより望ましいと思われた。妊娠初期のスクリーニングの必要性が改めて示唆された。